

# 岩瀬文庫 怪談尽くし

「怖い」だけじゃない、日本の多彩な怪談文化の世界をお楽しみ下さい。

平成24年6月16日(土)～9月2日(日)

■開館時間 午前9時～午後5時  
■休館日 月曜日・7月17日(火)

入場無料

◇展示解説 6月30日(土)・7月28日(土)  
場 所…2階企画展示室

※予約・料金は不要です

◇岩瀬文庫怪談めぐり 展示中の本から選りすぐりの怪談を館内のあちこちに掲示します。暑い夏に江戸時代の怪談話でヒヤッとしてみませんか？

## ◆岩瀬文庫古文書講座

「江戸時代の怪談を読んでみよう」

日 時…7月21日(土) ①午前10時30分～12時 ②午後1時30分～3時

※①②同じ内容です

定 員…①②とも30人(要予約)

場 所…地階研修ホール

資料代…100円 申込み…7月7日(土)より電話または直接岩瀬文庫へ

事前に資料をお渡ししますので、一通り読んでご参加ください。

## ◆怪談ナイトin岩瀬文庫

夜の岩瀬文庫で怪談ばなしと肝だめし。

日 時…8月19日(日) 午後6時30分～8時

定 員…30人(要予約) ※小学生以下は保護者同伴

申込み…7月28日(土)より電話または直接岩瀬文庫へ

## 探検 岩瀬文庫 CO<sub>2</sub>殺虫バッグ 導入

大切な岩瀬文庫の蔵書や文化財などを良い状態で未来へと伝えてゆくためには、様々なダメージから守らねばなりません。虫による被害もそのひとつ。岩瀬文庫の蔵書や文化財の素材に多く使われる和紙や糊、木材、革などは害虫の大好物です。これらを喰い荒らす害虫を駆除するのに、従来は強い薬剤が使用されてきました。

しかし近年、世界中で環境への関心が高まり、強い薬剤の使用を忌避するようになりました。岩瀬文庫も例外ではなく、このほど殺虫剤ではなく二酸化炭素による燻蒸を行う装置を導入しました。

銀色のテントのようなカバーの中に資料を入れ、密閉して空気を抜き、かわりに高濃度の二酸化炭素を充填させて2週間ほど置き、資料についた害虫を退治する仕組みです。残留毒素の心配がないことから、穀物などの貯蔵の際にも使用されてきた方法です。



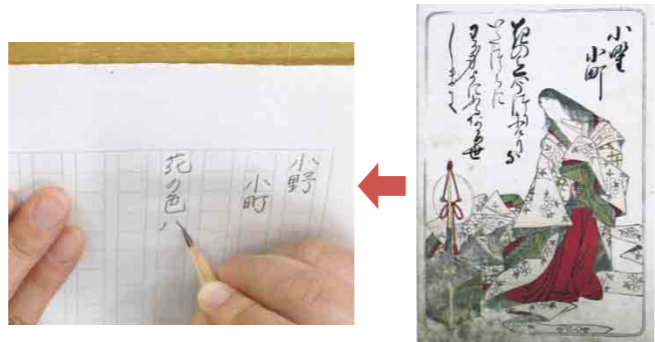
強い薬剤は危険を伴うため、これまでの燻蒸作業は専門業者さんに依頼しなければなりませんでした。このCO<sub>2</sub>殺虫バッグならば職員の手で簡単に取り扱えます。よって、経費の削減も見込めます。環境への負荷も小さく、こまめに対応でき、資料を害虫から守る、心強い秘密兵器の導入です。

## くずし字を読んでみよう その1

「くずし字が読めるようになるにはどうしたらいいの？」というお問い合わせがよくあります。残念ながら、すぐにすらすらと読めるようになる秘術はなく、「これは〇〇という字のくずした形だな」とひとつずつ覚えて、読める字の数をコツコツ増やしてゆくしかありません。

まずは、くずし字で書かれた文を「この字は何て字かな？」ととにかく読むことから始めます。別の紙(縦書きの原稿用紙がおすすめです)へ一文字ずつ、いまの楷書の字に直して書き写しましょう。横着して書かずに字面を目で追っているだけ(読めていないのに何となく読んだ気になってしまうものです)より、一字ずつ確かめるように書いた方が格段に力がつきます。またくずし字の紙に直接書き込むのではなく別の紙に書くのは、ひとつには繰り返し練習できるように、答えをすぐ脇に書かないためです。もうひとつには、読みがなとか調べたことなどの補足を後からいっぱい書き込めるようにです。もしくずし字の脇のせまい隙間にそのまま書いたりしたら、あとから訳がわからなくなってしまいます。

読めない字があっても当たり前、そこはとりあえず空欄にして飛ばしておけば構いませんから、とにかくひとつおりの最後までチャレンジしてみましょう。大丈夫、未知の言語ではありませんから落ちていてじっと見てみて!「一文字もわからない…」ということはないと思いますよ、多分。(つづく)

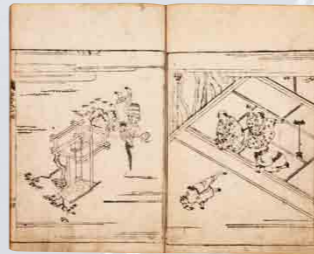


こんな風に書き写します

例えばこういうのを…



『武陽観場画譜』より  
初代竹沢藤次の曲独楽



『西鶴織留』  
浮世草子の大家・井原西鶴が描く怪談



『伽婢子』  
怪談を通して教訓を説く仮名草子



『桃山人夜話』  
妖怪カラー図鑑

## 蔵書紹介 『画図百鬼夜行』 (表紙の写真)

(51-56)二冊  
鳥山石燕作画 安永五年(一七七六)版

狩野派の絵師で、喜多川歌麿の師としても知られる鳥山石燕(一七一四～一七八八)が、和漢の書物や古画から集めた「鬼」たちに、絵と名称を付した妖怪図鑑です。「鬼」には、いわゆる化物、物の怪のほか陰の気や死者の霊などの意味も含むため、本書でも天狗や猫又、河童といったおなじみの妖怪だけでなく、幽霊や木魅、幽谷響なども取り上げられています。本作の人気によって、『今昔百鬼拾遺』『百器徒然袋』の続編が出版されました。

それまで妖怪たちの姿は書物の文章中や各地の伝承でそれぞれに表わされたり、逆に中世以来の百鬼夜行絵巻の妖怪たちは、姿はあっても明確な名前がないものがほとんどでしたが、本書の流布によって、共通した明確な姿と名前が一般に認知されるようになりました。石燕が描いた、どことなく愛嬌のある妖怪たちの図は、後世のさまざまな妖怪画に転用され、現代の水木しげる先生の作品にも登場しています。

岩瀬文庫では、三冊組のうちの二冊(陰・風の巻)だけを所蔵しますが、面白いのは昔の持ち主によるものと思われる落書きです。例えば、写真の河童の頁には「常太郎」といふ「獺の頁には「彦三郎」といふ」とあります。どうやら、顔が似ている知り合いの名前を書き込んだようです。江戸時代人の気楽な妖怪本の楽しみ方がわかる興味深い資料です。